

# 第1回垂水市立学校の在り方検討委員会 会議録

日 時	令和7年8月25日（月曜日） 午後2時00分から午後3時35分
場 所	垂水市市民館 大ホール
出席者	出席委員35名（欠席5名）、オブザーバー1名、教育委員会事務局4名
概 要	<p>1 開 会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 教育長あいさつ</p> <p>4 出席者紹介</p> <p>5 委員長・副委員長選出 委員長に寺床勝也委員、副委員長に山口武志委員を選任</p> <p>6 垂水市立学校の在り方について（諮問） 諮問書を寺床委員長が収受</p> <p>7 委員長あいさつ</p> <p>8 議 題</p> <p>(1) これまでの経緯及び本委員会の趣旨について（事務局説明）</p> <p>【委 員】児童生徒数の今後の減少や学校の老朽化対策、学校規模についてメリットやデメリットについて考慮され、学校の在り方について検討を進める趣旨の説明があった。少子化に伴い、学校の統合等は今後、必要になってくることとは思う。ここで懸念されることとして、学校の在り方検討委員会が、地域において『小学校の統合が性急に進められるのではないかな。小学校が無くなることで地域の活性が損なわれてしまうのではないかな。』という、心配が広がるのではないかなということだ。地域の方々の思いに十分配慮しながら、全ての地域が活きる方向を見い出し、理解を進める必要があると考える。また、主旨の内容についての私見だが、『本市の児童生徒は、居住場所に関わらず、同等の学校教育を享受することができる。児童生徒の教育を受ける権利を最大に尊重する。』ことの意味を含めながら、進めていきたいと思う。</p> <p>【委 員】資料に、『各小学校は校区のコミュニティーの中心にもなっている』とあったが、コミュニティーとしての具体的な活動にはどういったものがあるのか。</p> <p>【事務局】小学校と各校区の地区公民館と合同運動会を開催したり、地域に伝わる踊りである『鎌ん手踊り』を地域で子どもたちに教え、地域のお祭りで一緒に踊ったりすることで交流するなどがあげられる。このように各地域に伝わる行事を通して、コミュニティーとして活動し、交流を深めている。</p> <p>【委 員】資料に、『本市の児童生徒数についても大幅に減少している』とあった。垂水市及び教育委員会として、人口流出、ひいては過疎化を防ぐ手立てとして、どのようなことに取り組んでこられたか伺う。</p> <p>【事務局】全庁的に移住促進支援事業や出産・育児支援事業に取り組んでいるが、昨今の少子化の波は激しく、十分な効果が得られていないというのが現状である。</p> <p>【委 員】本日お集まりの皆委員におかれましては、垂水の子どもたちをいつも温かく</p>

見守ってくださりありがとうございます。保護者だけではなかなか目が行き届かないところもある中で、委員の御理解と御協力を賜りとても心強く感じているところである。今後の減少をみて、正直驚いたところである。子どもたちの未来を考えたとき、また、垂水のまちの将来を想像したとき子どもたちにとって、今のうちからより良い環境づくりが必要だと感じたところである。今、私たち大人ができることを、この在り方検討委員会で建設的に協議して、未来を担う子どもたちにより良き垂水を引き継いでいけたらと思う。

(2) 本市の学校の現状について（事務局説明）

ア 児童生徒数の推移 イ 学校施設の状況

【委員】少人数教育のデメリットとして、コミュニケーション力を育てる機会が少ないという説明があったが、そうとも限らないのではないか。確かに児童同士でのコミュニケーションの機会は少なくなるかもしれないが、コミュニケーションというものは何も児童同士に限らない。児童に大人がしっかりと関わっていくことで、児童のコミュニケーション力は育っていくのではないか。根拠としては、私の知り合いの子どもが通っている内之浦の岸良学園がある。こちらでも少人数教育であるが、児童のコミュニケーション力が不足していると感じたことはない。よければ交流を企画するなど、参考にしてみてもどうか。

【委員】人口減少に伴い、将来的に児童数が大きく減少するということが、よくわかった。そこで、教育委員会としては、学校の統廃合も含め、今後、具体的にどうすべきだと考えているのか。もし、何か考えている計画や、今後の予定があれば教えていただきたい。

【教育長】教育委員会で考える今後の予定・計画というものはない。今後の学校の在り方については、本検討委員会から答申を出していただきたいと考えている。教育委員会としては、委員皆様の決定についてサポートしたいと考えている。

【委員】児童数の推移の見通しについてだが、これは現在、垂水市に住んでいる未就学児数から算出したものか。他市との転入出など、児童数の推移に影響する要因が他にあると思う。これらを加味した資料は作成していないのか。

【事務局】ご指摘のとおり、本資料は、現在、垂水市に住んでいる未就学児数からのみ作成しており、より正確に推計する場合は転入出や出生・死亡を考慮する必要がある。しかし、本市の未就学児を抱える世帯の、転入出等について、ここ数年の状況を確認した結果、本推計資料と実数の間に、大きな差は発生しないものと考えている。

【委員】少人数教育のデメリットとして、友達と対話的・協働的な学びを行うことが難しいという説明があった。この問題に対し、学校では現在、何かしらの方法で対応しているところかと思われる。その取り組みについて、教えていただきたい。

【事務局】小規模校で一緒に修学旅行に行ったり、また、本市は『DXのまち』として、ICTを活用した教育に力を入れており、その中で、例えば算数の授業について、4校合同でオンライン合同授業を行ったりするなど、友達と対話的・協働的な学びが行え

るよう工夫している。

(3) 今後の進め方について（議事承認）

【委員】人口の推移や今後の予定等、資料には注視しておく内容が多くあると思う。そのため、会議中に資料の読み込みから行っていたのでは、読み込みに時間がかかり、質疑まで十分に行えないのではないかとと思われる。そこで、次回から資料を事前に配布しておいていただきたい。そうしていただければ、会議までに読み込み、会議内で深い対話が行えると思う。

【事務局】申し訳ございません。資料について、次回から事前に配布できるよう、準備いたします。

【委員】先日、現在休校中の校区の方と、語る機会があった。話の中で「境小は現在、休校中なのです。ここに通う子どもがいて、学校が再開されることを望んでいますよ。若者が帰ってきて、ここに居を構えてくれたらありがたいんですけどね」と言われていた。ちょうど、住宅の隣の空き地の雑草を、父、息子で草刈りしている方がいたので、声をおかけしたら。父親が「息子が、帰ってきて、ここに家を建てればいいんだけどね。」と言われていた。今後、統合等を進めるにあたっては、準備期間を設けられることになると思われるが、地域の理解と協力が頂けるように配慮されるようお願いしたい。最終的には、どこの学校に通学させるかは、保護者の判断に委ねられることになると思うが、保護者と児童の不利益にならぬよう十分に配慮し、開校、閉校について検討していただきたいと思う。統合についての移行、準備期間が始まったら、特認校の学校への転入、または転出についても融通が図られても良いのではないかと考える。

(4) 保護者・児童アンケートの実施について（議事承認）

【委員】アンケートにより保護者・児童から広く意見を収集するところかと思う。児童に統廃合について問うと、難しく考えてしまう児童もいるかと思うので、統廃合等の事情は敢えて伏せることで、児童数が減っていく現状について素直な、純粋な意見を引き出すことが必要かと思うがいかがか。

【事務局】現在、考えている小学生向けのアンケートは、学校の形態等、難しい項目を含まない内容を考えている。また、アンケート実施の際は、先生についてもらうよう配慮します。

【委員】今後、統廃合を視野に入れて協議をしていくことになるかと思うが、統廃合を行うと決めた場合、その根拠について広く説明を行っていく必要があるかと思う。そこで、垂水中央中学校の統廃合にかかる資料について、次回の協議で提示していただきたい。確か当時、中央中の統廃合を進めた大きな根拠としては、複数の中学校を運営していく金額が大変大きい。1校に統合すれば、費用を大きく削減することができるというものであったかと思う。

【事務局】垂水中央中学校の統廃合にかかる資料について、次回以降の協議で提示する。

【委員】保護者用のアンケートの問4の回答部分に、左から「①統合しない方が良い」「②3校程度に統合」「③1校に統合」とありますが、この表記は左から数字が少ない順になるよう、②と③を入れ替えたほうがわかりやすいのではないかと。

【委員】保護者用・児童用どちらのアンケートにも、「1クラス当たりの人数は何人が良いか」とあるが、このクラスというのはどういったものを指すのか。協和小学校は複式学級であり、2学年で1クラスを構成しており、この場合は2学年を指すのか。

【事務局】アンケートの表記については、「1学年の1クラス当たりの人数」となるよう修正する。

【委員】現在の小学校の各学年の生徒数は、中学校統合検討時の中学校の各学年生徒数より極端に少なくなっている。この現況では、資料の「少子化進行により考えられること」のメリットとして表示してある項目は、現在の小学校各学年児童数および完全複式学級となった現状では、既にメリットとして十分に機能していないのではないと思う。このメリットをそのまま受け取ると、複式学級の課題が見えないまになり、また「学習面で基礎学力の向上が図りやすい」という表現も、どのような根拠（データ）に基づいているのかあいまいであり、翻って「35人学級では、教師の目が届かないのか」、「活躍の場が増えるということだが、子ども一人一人が主役なのではないか」との疑問点も出てくる。このメリットの項目は昨年の各学校の学校運営協議会からの報告事項としての取り扱いだが、「メリットの項目」が独り歩きしないように、事務局としても本当にメリットとして機能しているかの検討し、統合された場合でもそのメリットが低下しない、フォローができるのだという見解の提示が必要だと思う。

【事務局】メリット・デメリットの表記について、ご指摘いただいたので、事務局で再度検討し、適宜資料を修正する。

【委員】また、私の地区では、地区公民館主催の地区運動会と小学校の運動会を開催しており、地区の皆さんへ小学生の元気な姿や小学校の様子を見られる良い機会となっている。また、地区の郷土芸能を小学校の生徒を交えながら演舞する機会を設けたり、灯籠づくり、小学校の奉仕作業への地区民の協力など、子どもたちが「地域を理解する」「地域を誇りとする」良い機会となり、地域にとっても「子どもは地域の宝」「子どもを地域で育む」との機運も醸成されている。しかしながら、それらの一面のみに重きを置きすぎて全体的な統合することの良さを見誤ってはならず、やはり優先すべきなのは「子どもたちの可能性や未来」であり、「子どもたちにとっての良い教育環境の構築」だと思います。そのためにも、今回の保護者へのアンケートにおいて、「校区ならではの特色ある教育活動」や地域活動について、保護者が今後も「残してほしい」「いかしてほしい」という思いがあれば、項目をあげていただき、その内容を本検討委員会等で、今後どのように対応していくか「どう引き継ぐか」「どう改善するか」等の協議をする機会も必要だと思う。

【事務局】「校区ならではの特色ある教育活動」や地域などでの活動について、保護者用アンケートに記述欄を設け、保護者から今後も「残してほしい」「いかしてほしい」地域行事等について回答をお願いする。

【委員】保護者用アンケート問4について、「3校程度に統合」とありますが、具体的にはどの地域を考えているのでしょうか。このままではわかりづらいため、地域について明記してはどうかと思う。

【事務局】旧行政地区であった牛根、垂水、新城の3地区を考えていた。アンケートについてわかりやすく明記する。

(5) その他

【委員】境小学校が休校してからもう3年ほどが経つ。長く休校期間が続いているが、教育委員会として、再開にむけた準備等を行っているか。具体的には、再開となった場合に備えた県からの教職員や市の事務職員などといった人員の確保などである。また現在、境に住む未就学児で、将来境小への入学を希望する者がいるとも聞いているが、再開の準備を行っているのか。境地区に住む地域の人々は、境ばかり休校しているのが大変残念であると感じている。公民館館長として、ぜひ再開していただきたいと思っているが、いかがか。

【事務局】資料にあるように、現在、境地区に住む小学生は7名であるが、どの児童も、それぞれの事情で他校に通っており休校しているところです。今後については、資料にあるように、令和9年度に1名、令和11年度に1名、入学の対象となる未就学児が境地区に居住しているので、教育委員会としては、こちらのご家族の意向や本人の希望を確認する。

【委員】境小学校が休校していることは、地域として大変残念に感じているということを知っておいていただきたいと思う。地域として、公民館長として、一刻も早い再開を切に望むばかりである。ぜひ、前向きな検討をお願いしたい。

9 閉 会